

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東大阪市営旧上小阪東住宅建替事	階数	地上14F
建設地	大阪府東大阪市新上小阪	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	382 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年6月21日
敷地面積	6,165 m ²	作成者	株式会社市浦ハウジング&プランニング
建築面積	966 m ²	確認日	2023年6月21日
延床面積	9,345 m ²	確認者	株式会社市浦ハウジング&プランニング 山田 敏人



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	街並みとの同調につとめ、周辺の環境を維持するよう努める計画とした。また、省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	その他 特になし
Q1 室内環境	外皮性能として、住居部分は日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を満たす計画とした。また建築材料にはほぼ全面的にF☆☆☆☆の材料を採用し、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ないものを採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 外装や屋根の形状・色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させた。
LR1 エネルギー	LED照明を採用し、設備システムの効率化に努めた。また適切な断熱材を施し、外皮の熱負荷抑制に配慮した計画とした。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮をしている。
Q2 サービス性能	維持・管理のしやすい仕上材を採用し、清掃等に配慮した計画としている。	
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料を使用する計画とした。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	東大阪市営旧上小阪東住宅建替事業					
	建設地	大阪府東大阪市新上小阪					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告	対象外
-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		